

# うた ひつじの詩だより

2006, 7, 1  
毎月発行 No.64  
この便りはご注文の品と  
いっしょにお届けします

緑が鬱蒼として、おもたくなってきました。梅雨の晴れ間の日には、今の時期、雲の上にはこんなにまぶしい日差しがあるのだと驚かされます。

沖縄ではもうとくに梅雨が明けて、毎年この季節と桜前線を待ちわびる頃には、日本がとても広い国のように感じられます。7月の手仕事の楽しみのひとつに藍の生葉染めがあります。青々とした藍の葉っぱを何枚か摘んできて、染めたい布におきます。新聞紙やキッチンペーパーではさんで、固い床の上で、石などを使ってとんとん叩きこみます。藍の葉っぱとおりのグリーンの模様が布に写し出され・・・それはそれはうれしい瞬間。この季節ならではの遊びです。

## ばたぼんの仕事展 ～遊びの風景～

スウェーデンひつじの詩舎講師 “ばたぼん” の作品展

7月7日(金) 9:00～16:00 そよかぜ幼稚園

京都府京田辺市大住虚空蔵谷55

この後も10月に東京都小平市、12月に横浜市で予定されている他、全国各地で企画中です。お近くの会場へ、是非お運びください！

## 新刊図書のご案内

「心の座標軸」というタイトルにまず魅かれました。私事で恐縮ですが、'94年に出した「ウォルドルフ人形と小さな仲間たち」に一子どもの心をひとつの自分の座標軸にもつことと記したその時の心境を思い出して思わず注文しました。

次に、読んでみて一世界を変えるのは、たいていの場合、無名のひとりの発明か、目立たない人の発した小さな声や行いです。誰も知らなかったマザーテレサがカルカッタの貧民窟に入った時、目に見えない世界が変わりました。一という一節が心に響きました。

よく日本の常識＝世界の非常識と言われます。気がつかないか、変だと思っても言えない、ましてや行動に移せない、そのような気の弱さを嘆く時、この本で、本当のコモンセンスって何なのか、知ることの大切さを知ります。

道に迷った時、決断をくだす時、この、心にストンと落ちる先人（まだご存命ではありませんが）の道しるべに出会っていたら、本当の自分を見つけることができる、そのような気がします。佐々木奈々子

（「心の座標軸」犬養道子著 婦人之友社：スウェーデンひつじの詩舎でもご注文いただけます。）

—お知らせ—8月12日（土）から17日（木）までスウェーデンひつじの詩舎はお休みをいただきます。

7月の「ペレのこひつじ」「日曜ワークショップ」はそれぞれ第4土曜日（22日）、第4日曜日（23日）になりますので、お間違いなく！ 8月の「ペレのこひつじ」はお休みです。



## ばたぼんつうしん

本当の本物のお人形

森田智子（盛岡在住）

ずっと、ウォルドルフ人形こそ本物のおもちゃだと思っていた。ところが、それ以上の本物のお人形に出会ってしまった。それはそれは衝撃的だった。

6、7年前にウォルドルフ人形をつくった方から久しぶりに連絡があった。そのお人形はクンちゃんというのだが、どうも具合がわるいらしく診察してほしいと、小学4年生の息子さんが言っているそうだ。それも、ひいおばあちゃんに診てもらいたいと言っているらしい。クンちゃんのお母さんはその息子さんで、お母さんはおばあちゃんになるらしい。ということでお人形づくりを伝えた私はひいおばあちゃん。

「これなんです・・・」とそりり出てきたお人形は、頭にはスッポリ毛糸の帽子をかぶり、額はこすれて傷だらけ、顔色も悪く特に口のまわりはひどい。本当に重い病気を患っているかのように辛そうだ。そして、帽子をとったとたん周りにいた人皆、絶句！髪が全くないのだ。全体に毛糸の後が残っているのがよけいに痛々しい。私も一瞬言葉を失い息をのんだ。

が、大事そうに抱きかかえる姿に、我に返ると同時にそのお人形、そして彼、お母さんの三人の深い愛情が伝わってきて胸がいっぱいになった。今も学校から帰るとすぐクンちゃんを抱っこして頭をなでて、自分の顔をあててスリスリしているのだそう。もちろん夜も一緒。そんな片時も離れたくない彼が、クンちゃんを何とかしてあげたいと小さな胸をいためながらも、元気になって帰ってくるのならと、思い余ってお別れしたらしい。診察に行くときも袋には入れないであげてと付け加えて。

さて、問題は診察と治療。元気になるのは大変だが全部はずして大手術をすればなんとかなりそうだ。だが長年かわいがってきた彼にはこのクンちゃんが焼き付いているはず。少しでも違った表情になればガッカリするだろう。どうするか悩んでいるうち「ピロードうさぎ」という本のことを思い出した。

ピロードでできたまだ新しいぬいぐるみのうさぎは、ぜんまい仕掛けの自動車こそ、おもちゃ箱のなかでは一番立派で本物なんだ。と、その家の子も達から忘れられている寂しさからおがくずの詰まった自分を責めていた。ある時、皮でできた大きな馬が言った。その馬の皮はすりきれてぼろぼろになっていた。本当のものとは何で出来ているのかということではない。長い間かかってだんだんに本当のものになるのだと、だからすぐに壊れてしまう物や、とがった角のあるもの、大事にしまっておかなければならないような物はなれない。そしてたいてい本当のものになる頃には毛はすりきれボロボロになってしまうのだ。だがボロボロになって本当のものになってしまえば、もう、みっともないなんてことはなくなる、と。終にはうさぎも每晚抱っこされピロードの毛もみすばらしくなるのです。

保育専門の「tetoteto」の高橋さんにも診てもらって、髪は新しくしっかり付け替えて、額の傷はそれ以上広がらないようにそっと縫いとめる事にした。彼も喜んで納得してくれた。今は、しっかり髪も生えそよい元気な姿にもどった。そして、またスリスリしているそうだ。



編集担当：佐藤治子

スウェーデンひつじの詩舎のホームページ  
検索キーワードは「s-hitsuji」と「詩舎」  
<http://www.s-hitsuji.co.jp/>

♥スウェーデンひつじの詩舎♥

スペース ヘシのあたらしいふく  
〒244-0001 横浜市戸塚区鳥が丘15-2  
TEL.FAX 045-881-6900.6665  
佐々木のアトリエ TEL.FAX 045-811-6708  
相談窓口・金担当：寺田裕子045-881-7035